



関東支部 第124回(2010年度)研究大会・総会のご案内

大会テーマ **インプットからアウトプットにつなげる指導
—第二言語習得(SLA)の視点をふまえて—**

会員・関係者各位

今年2010年は、鉄腕アトムが小学校に入学する年です。アトムは、人間の言語を解し、かつ人間の言語を操ります。それも、情緒豊かに。しかし、アトムはロボットですから、アトムの言語能力の基礎は、人間のインプットによるものはずです。それが、どのようにして、あのように豊かなアウトプットを生み出すようになったのでしょうか。私たちは、鉄腕アトム以上に、無限の可能性を秘めた生徒・学生達と日々対峙しています。生徒・学生への「インプット」、そして彼らからの「インプット」。その両者の様々な側面とあり方を、この研究大会で皆様と考えていきたいと思ひます。

前回に引き続いての、この大会テーマを軸に、懇親会まで有意義な議論の場が生まれますことを念じています。諸行事の立て込むお忙しい時期ではありますが、非会員の方々もお誘いの上、皆様、どうぞご来場ください。

研究大会でお会いできますことを楽しみにしています。

2010年5月

外国語教育メディア学会

関東支部長 **森田 彰**

記

主 催 外国語教育メディア学会(LET)関東支部
期 日 2010年6月5日(土曜日)
会 場 大東文化大学 板橋キャンパス
(〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1)
東武東上線「東武練馬駅」より無料スクールバスで約7分
(スクールバス乗り場まで徒歩5分)
都営三田線「西台駅」より徒歩10分
路線バス(国際興業バス)
東武練馬駅—浮間舟渡駅「高島六の橋」下車
成増駅北口—赤羽駅西口(志村三丁目駅)「大東文化大学」下車
<http://www2.daito.ac.jp/jp/>

外国語教育メディア学会関東支部事務局

〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8

東京慈恵会医科大学 国領校教員控室内

電話&ファックス: 03-3436-9590

E-mail: kanto-office@j-let.org

日 程

9:15 ~

受 付

3号館1階

9:45 ~ 10:50

研究発表・実践報告

3号館1階

第1会場 0105

司会 神田 明延 (首都大学東京)

9:45 ~ 10:15

- ① 「東北大学における Web 対応 CALL 教材
『Linc English』導入の目的とその実践報告」

橘 由 加 (東北大学)

10:20 ~ 10:50

- ② 「音声教材開発のための基礎研究(4) —TOEIC・
TOEIC Bridge・英検のリスニング問題トピック分析—」

下 山 幸 成 (東洋学園大学)

小 屋 多 恵 子 (法政大学)

第2会場 0113

司会 香取 久子 (東京電機大学)

9:45 ~ 10:15

- ① 「総合的英語熟達度が
シャドーイング・パフォーマンスに与える影響の分析」

山 内 豊 (東京国際大学)

峯 松 信 明 (東京大学)

羅 徳 安 (東京大学)

川 村 明 美 (東京国際大学)

10:20 ~ 10:50

- ② 「英語発音学習教材の開発
—音符と移動字幕を併用して—」

宇 佐 美 昇 三 (日本大学)

田 淵 龍 二 (ミント音声教育研究所)

第3会場 0115

司会 土屋 武久 (武蔵大学)

9:45 ~ 10:15

- ① 「コラボテストで英語専攻学生はいかに学んだのか」

南 紀 子 (創価女子短期大学)

10:20 ~ 10:50

- ② 「英語専攻女子短大生への CALL 授業」

下 島 義 容 (拓殖大学)

南 紀 子 (創価女子短期大学)

11:00 ~ 12:20

講演

3号館 1階 0114

「第二言語の音声習得と音声指導」

コミュニケーション重視の外国語教育や World Englishes の考え方の影響で、音声への関心が薄れた面もあるが、その反面メディア、とくにネットワークを通して、外国語の映像・音声へのアクセスが非常に容易になっている。このような状況で効果的な音声指導を行うには、もはや一般的な音声学の知識のみでは不十分であり、第二言語に於ける音声習得の様々なデータに基づく、理論的な考察が不可欠である。小学校で英語活動が導入されることを踏まえ学習開始年齢に、また今回の大会テーマでもある「インプット」と「アウトプット」の質や量に焦点を当て、音の質、高さ、長さ、強さの習得についてのいくつかの仮説や理論を紹介する。さらにその理論的な枠組みが音声教育にどんな示唆を与えてくれるかを考える。

講師紹介 生 田 祐 子 (文教大学)
講 師 原 田 哲 男 (早稲田大学)

12:20 ~ 13:20

昼食・展示

3号館 1階 0106・0107

<昼食> 中央棟 1階 グリーンスポット、1号館地下生協カフェテリアをご利用ください。
<展示> 賛助会員による展示を 3号館 1階 106・107 室にて行っています。

13:20 ~ 13:50

総会

3号館 1階 0114

総 合 司 会 田 中 深 雪 (大東文化大学)
会 場 校 挨拶 中 村 浩 一 (大東文化大学外国語学部長)
LET 関東支部長挨拶 森 田 彰 (早稲田大学)

参加者へのお願いとご案内

- 1) 参加費について
<会 員> 参加費は無料です。
2010 年度会費(7,000 円/学生 4,000 円)未納の方は受付で納入してください。
<団体会員> 一団体につき 1 名が無料で参加できます。
2 人目からは 1,000 円をお支払いください。
<非 会 員> 1,000 円(資料代) 学生も同額です。
- 2) 録音・録画についてはお断りしています。ご了承ください。
- 3) 駐車場はございませんので車でのご来場はご遠慮ください。

14:00 ~ 15:20

講演

3号館 1階 0114

「外国語学習の科学 —SLA 研究のメディア教育への示唆—」

第二言語習得研究は外国語学習という非常に身近な現象のメカニズムを科学的に明らかにするという目的で、1960年代ころから活発に研究を続けて来た比較的新しい分野であるが、いまだ一般的認知度は低い。これまでの外国語教育・学習は、個別主義・経験主義、つまり、自分がこうやったらうまくいった(ような気がした)から、このようにやる、人にもそれをすすめる、という状況が大多数であろう。そこからさらに、どうやったら実際に結果をだせるか、という観点で、第二言語習得研究の応用を考えていく必要がある。このような観点から、外国語教育を向上させるために、個々の教師がいかに「研究者的視点」をもって「科学的に」学習者に対峙していく必要があるかを検討していく予定である。

講師紹介 入 江 潤 (明星学園小学校)
講 師 白 井 恭 弘 (ピッツバーグ大学)

15:30 ~ 16:50

対談

3号館 1階 0114

「インプットからアウトプットにつなげる指導
—第二言語習得(SLA)の視点をふまえて—」

第二言語習得という研究分野に対して、社会が過大な期待をしすぎるという傾向がある。それは、わかりやすい結論だけを求めてしまうということである。つまり、面倒くさいことはいいから、どうやったら簡単に外国語が習得できるか、どうしたら効果的に教えられるか簡単に教えてほしいという「ないものねだり」である。むしろ、第二言語習得の知見は、個別の教育現場での判断基準となるべき「必要不可欠な基礎知識」としてとらえられるべきである。本対談では、例えば学習開始年齢と音声習得など、一般的に言われていることの解釈にかかわる問題点を紹介しながら、参加者の質問やコメントに第二言語習得の観点から回答することを試みる。

司 会 跡 部 智 (慶應義塾普通部)
対 談 者 白 井 恭 弘 (ピッツバーグ大学)
原 田 哲 男 (早稲田大学)

16:50 ~ 17:00

閉会の挨拶

3号館 1階 0114

LET 関東支部副支部長 下 山 幸 成 (東洋学園大学)

17:10 ~ 19:00

懇親会

中央棟 1階 グリーンスポット

司 会 狩 野 紀 子 (拓殖大学)

申し込みは懇親会費 3,000 円を当日受付にて承ります。

発表者との懇談や参加者同士の情報交換の場としてご活用いただきたく、ふるってご参加ください。